

分科会における運行見直し（案）の検討

1. 分科会における検討内容

運行見直し（素案）の説明会やパブリックコメントの結果を踏まえて、全ての意見に対して事務局で整理し、分科会、協議会、運行事業者との協議等、検討項目を振り分け、第6回市民部会及び第4回専門部会において以下の内容について検討を行った。

東部の南北移動ルート廃止問題について

見直し（素案）において東部の南北移動ルートが完全に絶たれたことに対して、多くの反対意見が出されている。

市立病院のアクセス方法について

過去の分科会などにおいても議論し、効率性、乗車快適性等の観点から検討した結果、現況の西側道路からアクセスすることとなったが、意見募集において、周辺自治会の住民からルート変更の意見が出されている。

乗り間違い防止対策について（ルート名など）

バス車外の電光掲示板が見えにくい、また、全てが同じバス車両であることで、どのルートなのかわかりにくいという意見が多く出されている。

その他の運行内容について

その他、一部のルート・バス停や、運行内容についての意見も出されている。

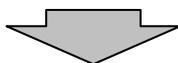
2. 分科会における検討結果

検討結果を以下に示す。

東部の南北移動ルート廃止問題

【市民部会での意見】

- ・豊川支所と東生涯学習センターは重要な公共施設なので、オレンジゆずるバスによるアクセスは確保しておくべきである。
- ・東部南北移動重視ルートは現在の黄ルートと同様で2時間に1本のサービスとなるため、不便で使えない。
- ・運行本数が減るなど、ルート全体に影響が出るのは好ましくない。
- ・全体的なバランスを考慮すると、東部南北移動重視ルートが良い。



【専門部会での意見】

- ・効率性を考えるならば、見直し(素案)のままのルートが良いが、市民部会での意見を考慮して、東部の南北移動ルートを確保する。
- ・全体的なバランスを考慮すると、東部南北移動重視ルートが良い。
- ・赤ルート(中ルート)1週の運行距離が大きく増加するため、赤ルート(中ルート)の一部を他のルートでまかなうなど、ルート1週の運行距離の振り分けを行う、または一部ルートの改定などの検討の必要がある。
- ・また、現状は、運行本数について利便性が悪く(2時間に1本の往復運行)、東部南北移動重視ルートで利便性が良く(1時間に1本の往復運行)なる。
- ・今後、利用状況(乗降数など)調査結果により、当該ルートの廃止も視野に入れた検討を行うこととする。



運行見直し(案)

見直し(素案)は、東部のみ南北移動がないルートとなっているため、南北アクセスを確保すべきという意見が多く、また、1時間に1本の運行を確保できる東部南北移動重視ルートが良いという結果になった。

ただし、各ルートの運行距離、時間のばらつきを考慮して、一部の運行ルート変更も検討する。

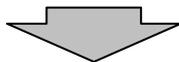


東部南北移動重視ルート

市立病院のアクセス方法

【市民部会での意見】

- ・主要な公共施設へのアクセスを確保することはオレンジゆずるバスの運行の主旨でもあり、市立病院へのアクセス利便性の確保に配慮が必要である。
- ・市立病院の利用者の利便性を考えると正面玄関まで行くことが大前提。
- ・市立病院のロータリーへのアクセスにより、特に高齢者からは喜ぶ声が多くある。
- ・北門からのアクセスは坂道が長く続き、カーブや交差点などで危険であるため、乗車快適性、安全性の面からも現況より劣るため、そのルートへ変更すべきでない。
- ・休診の土日のみ乗り入れないことも考えられるが、曜日ごとにバス停を変えることは利用者の混乱が懸念される。
- ・周辺自治会の方々には、騒音や環境問題に対する対策など実施していることについて十分に説明し、説得すべき。



【専門部会での意見】

- ・北門からのアクセスは、乗合バスとして運行する際には、病院管理者との協議や道路整備を行う必要がある。
- ・バスの運行上は、現在のアクセス方法がベストである。
- ・バスが運行している部分の住宅は少ない。また、これによる変更は、その他のルート全てで同じ問題が発生する可能性がある。
- ・市がこれまで対応してきたことについて詳細を示す必要がある。
- ・車両については、環境問題や騒音問題に対して、乗合バスとして利用できる車両としては最も優れた車種であり、車種の変更での対応は困難である。



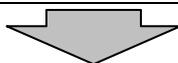
運行見直し(案)

現状の利用実態や、利便性や安全性、乗車快適性、効率性、ルート（バス停）のわかりやすさを全て踏まえて、現況のままのアクセス方法が最もよいという結果となった。
ただし、周辺自治会の方々には、騒音や環境問題に対する対策などを実施していることについて十分に説明し、理解を得る必要がある。

乗り間違い防止対策（ルート名など）

【市民部会での意見】

- ・色で呼ぶことに慣れていることもあり、色で示すのが良い。
- ・見やすさを考慮して、数字、またはアルファベットが良い。
- ・現行と同じ色のルート名であっても、徐々に浸透するので混乱することはない。
- ・行き先がはっきりわかるようにすべき。
- ・バス車両の4面、特に後ろにルート名を表記してほしい。
- ・フロントガラスの部分は運転手の視界を妨げると言うことであれば、ボディに直接貼り付けることはできないか。
- ・箕面駅、市立病院では色名だけでは行き先がわからないので、主要な経由地を表示するのがよい。
- ・車内にもルート図があれば、乗った後で見られるので便利だと思う。



【専門部会での意見】

- ・ルート名は市民意向を重視して事務局で検討する。
- ・車両4面へのルート名貼り付けは、阪急バスと協議の上検討する。



運行見直し(案)

現在の色を用いたルート名称は、多くの利用者に親しまれており、ルート名は色で表記する方が良いという意見が多い。

ただし、車両をどこから見ても、どのルートで、どこへ行くバスなのかが十分にわかるような工夫が必要である。

その他の運行内容（ルート名など）

【専門部会での意見】

- ・かやの中央のバス停で、西行き、東行きでバス停位置を分けてほしいという要望について、南ルート（黄ルート）において、萱野西側のルート運行を確保するという前提のもと検討を行うと、小野原方面に向かう際に萱野西側のルートの逆まわり運行を行うことで対応できる。ただし、逆まわりについては安全面等から、運行可能かどうかを含め検討を行う。
- ・「仮 豊川駅口」というバス停名は、駅からは少し離れた場所の設置となり混乱を招くため、「仮 小野原東四丁目東」など、地域名とする。
- ・ベンチは、施設系の箇所では、施設内に設置することを検討する。
- ・施設の催し物等の開始時間を、バスの運行時間に合わせるなどの対応を行っていくよう、行政から施設に呼びかけ、連携する。